

〈図書紹介〉『科学と技術への問い』：ハイ
デッカー研究会第三論集：ハイデッカー研
究会（山本英輔・小柳美代子・齋藤元紀・相
楽勉・関口浩・陶久明日香・森一郎）編 理
想者 二〇一二年

MAKINO, Eiji / 牧野, 英二

(出版者 / Publisher)

法政哲学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

Bulletin of Hosei Society for Philosophy / 法政哲学

(巻 / Volume)

10

(開始ページ / Start Page)

65

(終了ページ / End Page)

65

(発行年 / Year)

2014-03

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00009889>

【図書紹介】

『科学と技術への問い』——ハイデッガー研究会第三論集——

ハイデッガー研究会（山本英輔・小柳美代子・齋藤元紀・相楽勉・関口浩・陶久明日香・森一郎）編 理想社 二〇二二年

牧野 英二

本書は、精力的な研究活動を続けてきたハイデッガー研究会による三冊目の研究論集である。3・11以後、科学と技術との関係が根本的に問い直されている今日、本論集は、山本英輔氏執筆の「序」によれば、毀誉褒貶とも言うべき両極端の評価が下されてきたハイデッガーの哲学のなかで、一定の評価がなされてきた彼の技術論に関連する「科学と技術」というテーマを幅広い観点から、存在論的に論じた共同研究の成果である。

本書の主要内容は、掲載論文を列挙することで把握できる。第一部「前期ハイデッガーにおける科学と技術」…哲学と個別科学——初期ハイデッガーにおける根源学としての現象学——池田喬。解釈学の脱技術化——前期ハイデッガーにおけるテクネー概念をめぐる——齋藤元紀。『存在と時間』期の科学論 鷺原知宏。ハイデッガーと大学の理念——ヤスパースを手がかりにして——松本啓二郎。使命としての知——ハイデッガー一九三四年の「言葉」を巡

る転回——相楽勉。第二部「後期ハイデッガーにおける科学と技術」…惑星と技術——ハイデッガーのエルンスト・ユンガー読解——ペーター・トラヴニー「木村史人／庄子綾訳」。物と総かり立て体制——『プレーメン講演』再読——森一郎。芸術と学問——ジャコモメッティの彫刻と空間の問題をめぐる——関口浩。技術支配の時代における芸術——ハイデッガーとベンヤミンにおける芸術の享受者への問い——渡辺和典。尺度と同等化——陶久明日香。第三部「現代における科学と技術」…技術の創造性——ハイデッガーと技術の哲学——村田純一。自己知・アスベクト・遮蔽——ハイデッガーとウイトゲンシュタインにおける「靈性の構え」——荒畑靖宏。ハイデッガーの動物論の射程——人間と動物との共存在の倫理へ——三谷竜彦。〈場〉の謎——プラトン・ハイデッガー・場の量子論——小柳美代子。ハイデッガーと精神科学の問題——質的研究の興隆に寄せて——山本英輔。

ハイデッガー技術論・科学論の新たな可能性や批判的評価が示され、巻末には「科学・技術・芸術に関する独・仏・英ハイデッガー研究文献案内」（監修・齋藤元紀）という有益な資料が付されている。本書は、日本のハイデッガー研究における卓越した文献である。